

「60・3ダイ改」＝1/20千葉転支部大会＝ 「千葉60名減」攻撃を粉碎す



日刊 動労千葉

84. 11. 27
No. 1802

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

11月20日、千葉運転区支部第七回定期大会は、講習室に八四名の組合員が参加して開催された。「三本柱」攻撃と、去る15日に提案された「60・3ダイ改」に意見が集中、とりわけ、千葉転のみで五〇数名にも及ぶとみられているすさまじい要員削減攻撃に怒りをもって決起していく方針を決定した。

支部一丸となって闘おう

―永田支部長が挨拶―

大会は、白井副支部長の、「今大会はかつてない重要な大会である。大成功をかちとり、反撃にたとう」との開会宣言で始まった。

冒頭、来賓のあいさつにたった船橋市議・中江昌夫氏は、「私自身も一九四九年の定員法による首切り攻撃、官憲の弾圧等の時代を身をもって経験してきた。あんな理不尽な、凶暴な攻撃を二度と許してはならない」と訴えられた。

議長に藤平充弘代議員を選出した後、あいさつにたった永田支部長は、「この一年間、様々な攻撃がかけられてきた。今、『60・3』というすさまじい攻撃を前にしてわれわれに問われていることは、19年間、不屈・非妥協に闘いぬいている三里塚芝山連合空港反対同盟に学ぶことだ。本部―支部―分科が一丸となって闘

いに突入しよう。この大合理化は、動労『本部』革マルの動乗勤の裏切りがもたらしたものであり、断じて許すことはできない。ところが、このすさまじい当局の攻撃と自らの屈服・裏切りをいんべいして、『60・3』でダイヤはこんなに便利になります』などと、当局とまちがえるようなビラをまく一方で、『動労千葉や国労の組合員を首にしろ』と哀願する動労『本部』革マルを全職場から叩き出していかなければならない」とあいさつした。

「60・3ダイ改」阻止に議論集中

次いで、本部を代表して山口副委員長は、国鉄および三里塚情勢、とりわけ「三本柱」「60・3ダイ改」をめぐる動向について明らかにするとともに、動労『本部』革マルの反動的対応について暴露し、「60・3ダイ改」阻止にむけ泥沼化も辞さず闘いぬく決意が述べられた。

白井副支部長より、一年間の闘いの総括が、また内山書記長より今後の闘う方針が提起され、質疑・討論に入った。

- 代議員からは、①銚子への転勤問題、②「60・3」での東京乗り入れについて、③蘇我支区廃止問題、④「60・3」以降の千葉運転区の展望について、⑤当局が実施しようとしている「出向希望調査」の

取り扱いについて、⑥当局の組織破壊攻撃を未然に封殺していくためのとり組みについて、等々の質問・意見が出された。

これに対し執行部より、「60・3」は「分割・民営化」にむけ10万人の首を切る攻撃の突破口であり、「59・2」の敗北を教訓化して闘いぬくこと、「60・3ダイ改阻止や三本柱拒否で闘ったら、分割・民営化を狙う当局の思うツボだ」として、またも裏切りを図る動労「本部」革マルの「掃なしに、国鉄労働者の勝利はないこと、マル生を上まわる職場規律攻撃に対し、一人ひとりが労働者の生き方をかけてき然と対決し、支部全体ではね返していく闘いを強化していこう、等の答弁がなされ、満場の拍手で確認した。

大会は新役員を選出した後、組合歌を合唱、最後に永田支部長の音頭で団結ガンパローを三唱し終了した。

執行委員長	永田 雅章（四〇）	電運士
副委員長	白井 敏行（四一）	〃
書記長	内山 等（三八）	〃
執行委員	江口 治男（四一）	〃
〃	相原 昭二（四一）	〃
〃	加藤 正人（四〇）	〃
〃	梅沢 利男（四一）	〃
〃	関 弘明（四六）	〃
〃	角 清明（四二）	〃
〃	林 利明（三五）	〃
〃	石井 映（四一）	〃
〃	石橋 昇（三一）	〃
青年部長	中村 仁（二四）	〃

二期着工阻止・成田用水粉碎・自主耕作地防衛・中曽根打倒

12.2三里塚現地集會

東京実行委員会

12月2日(日) 正午 芝山町菱田 集合 10時

三期決戦で中曽根たおせ

1万4200名が三期阻止をちかう(10:10)